

研究概要

1. 研究名称 または課題名テーマ等

側弯症装具治療における装着時間と季節や気温との関係

2. 研究責任者(当院)

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：木村 弘美

3. 分担研究者

所属：聖隷佐倉市民病院

氏名：大崎 美奈子、小谷 俊明、佐久間 毅

4. 研究対象者

新規で側弯症装具治療を開始する 10 歳から 15 歳の患児。

Cobb 角 20 から 40 度で頂椎 T7 以下。

2021 年 9 月 1 日～2025 年 2 月の対象者で、装具治療 1 年経過した 163 名中、研究から逸脱、ドロップアウトを除いた 144 名。

5. 研究の必要性

特発性側弯症は、10 代のうちに小学校、中学校でのモアレ検診、運動器検診で見つかることが多い。Cobb 角 20 度を超えると装具治療が必要になる。基本入浴時間以外、20 時間以上の装着が治療効果として必要とされる。1 年を通し、受診時の Cobb 角により装具治療が必要とされたら、採型をおこない 2W 後には装具治療が開始される。装具が与える心理的ストレスは報告されており、装具装着時間に影響を及ぼす因子として、学校生活などの社会的環境、患児、親などの家庭環境などいくつか報告されているが、日本には、四季があり、装具開始時の、春、夏、秋、冬の季節や気温により、コンプライアンスに影響を及ぼし、装着時間に差がでるのではないかとの意見が学会内で上がるが、明らかな報告はない。近年の温暖化により、夏の気温は 30 度を超える日も多く、夏に装具治療を導入することに後ろ向きな意見も聞かれる。われわれは、夏に、一時的に装着時間の低下は見られても、夏に装具治療を開始することが、直接コンプライアンスに影響を及ぼすとは考えにくいと感じている。そこで、2021 年 9 月から 2025 年 2 月に、側弯症装具治療を開始した開始月を、気温の上がる 5 月から 10 月と 11 月から 4 月に分け、1 年経過後までの温度ロガーを用いた装着時間とその当時の平均気温を比較検討し、気温と装着時間に関連があるか調査し明らかにすることである。

6. 研究等によって生ずる個人への影響と医学上の貢献の予測

温度ロガーの活用により、患児の装具装着時間が正確に把握でき、今後の装具治療効果の判断や心理的影響との関連分析に役立つ。気温と装具装着時間の関連を明らかにすることで、看護として患児、保護者に対し装具治療時の身体的、精神的な関わりの適切な支援に繋がると考える。

7. 対象者、関係者等からの問合せ先(当院)

連絡先番号：043-486-1155

担当者氏名：木村 弘美

対応時間：平日 08：30～17：00